

●開催校企画テーマセッション(80分)

「投資家と対話の手段としてのビジネスモデル
—知られざる中国企業の成長の論理から学ぶ—」

研究成果報告形式

◎井上 達彦 (早稲田大学 商学学術院 教授)

鄭 雅方 (早稲田大学商学部 助手)

近藤 祐大 氏 (早稲田大学大学院 商学研究科 修士課程)

坂井 貴之 氏 (早稲田大学大学院 商学研究科 修士課程)

[概要]

10月18日(日) 9:30~10:50 A会場

世界経済は、GAFAと呼ばれるアメリカ企業とBATと呼ばれる中国企業によって動かされているという論調が目立ってきました。しかしその陰には、これらを凌駕するスピードで成長している中国スタートアップもあります。彼らは「中長期／短期的な視点」からビジネスモデルが成長するロジックを描き出し、投資家と対話をしながら必要な経営資源を集めています。企業家は、成長のロジックをどのように表現すればよいのか。本セッションでは、知られざる中国企業に注目し、急成長のロジックを明らかにします。また、日本のマザーズ市場において、どのような「型」のビジネスモデルが投資家の期待を高めるのかを実証的に示し、投資家と対話する手段としてのビジネスモデルについて検討します。

[参加者へのメッセージ]

ビジネスモデルというテーマは産業界では高い関心を集めているにもかかわらず、学術研究としては未成熟であり、確立された領域とはいえません。しかし、ビジネスモデルは「中長期的／短期的な視点を持つ投資家との対話」における有効なツールであり、「投資回収のタイムスパン」を語る上でも欠かせない概念です。このセッションでは、ビジネスモデルを今回のテーマに沿って学術研究の俎上にのせるべく、双方向的に検討していくたいと思います。オンライン開催となつても単純な質疑応答にとどまらないようにBreak-out sessionを試み、このテーマにどのようにアプローチしていくべきかと一緒に考えていきたいと思います。